

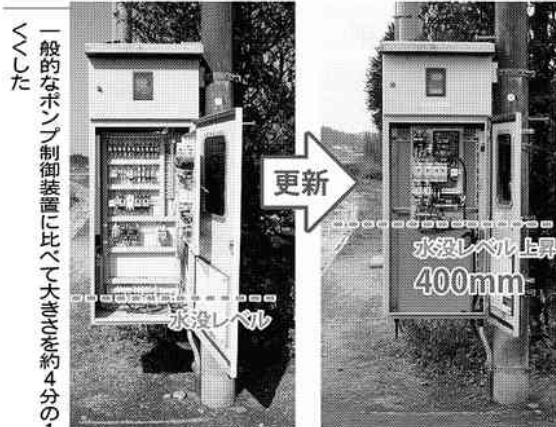


携帯端末やパソコンで
上下水道の水質や水量
などの監視ができる

上下水道は水質や水漏れの監視のほか、大雨な

全国自治体にPR

小型で安価、手軽さも武器



一般的なポンプ制御装置に比べて大きさを約4分の1にし、
くくした

更新

水没レベル上昇
400mm

1973年創業の同社は工場や店舗などの出入り口に使用するヒール製の高速シートシャッターの開発メーカー。韓国やタイにも現地法人や事業所を持つ。2000年にクラウド型水管理システム（当初はクラウドという概念がなく別称）を国内でいち早く開発し、「やくも水神」のブランド名でサービスを提供している。

どの災害時には水量を調節してあふれさせないようにする対策が必要だ。同社がサービスを始めた当時は有線を使って中央監視センターで行うシステムが主流で、導入に数億円かかる例もあった。

同社のシステムは監視センターが不要で、維持費も有線より安い。導入した自治体の中には通信費が7分の1に減ったケースもあるという。

携帯端末やパソコンで場所を選ばずに水質など

小松電機産業、クラウド型

水管理装置、水没しにくく

小松電機産業（松江市）は上下水道を携帯端末などで遠隔監視できるクラウド型水管理システムの販売を強化する。道路脇などに設置する制御装置を小型化して水没しにくくするなど災害対策を充実させた。有線を使った古い装置は設置後20年以上たつものも多く、今後各地で更新時期を迎える。安価で少ない人数でも管理できる手軽さを武器に、全国の自治体などに導入を働きかける。

の監視ができ、大雨などの緊急時には遠隔で排水ポンプや水門を操作して水量の調整が可能だ。古いシステムには異常時に警報通知を出すだけで、現場に足を運ばないと状態確認や操作ができないものもある。

で、大雨による洪水被害を受けにくくした。バッテリーも強化して停電時に標準で24時間、バッテリーの増設で最長7日間稼働が可能だ。他社製のものも含めて既設設備の外箱はそのまま利用し、内部の装置だけ交

換しても使えるため、更新費用を抑えられる。クラウド型水管理システムは他社でも取り扱う例が出ているが、先駆企業として一層の技術革新を進める。「今後も採用自治体を増やし、将来は全自治体に広げたい」と

小松昭夫社長は話す。21年3月期の売上高は約42億円。シートシャッターと水管理システムの比率は7対3だが、「水管理システムを半分まで高めたい」と目標を掲げる。

（鉄村和之）